

RFT-A型

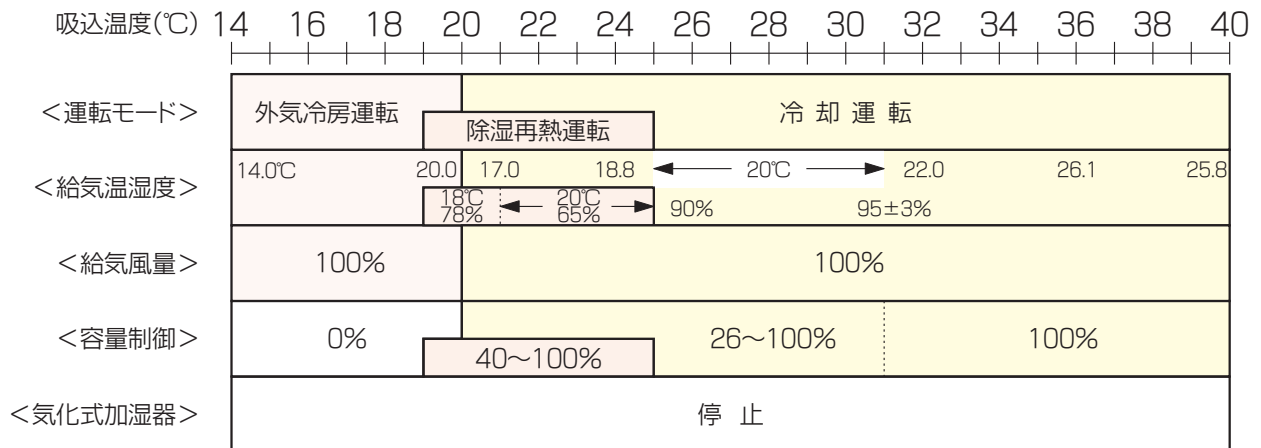
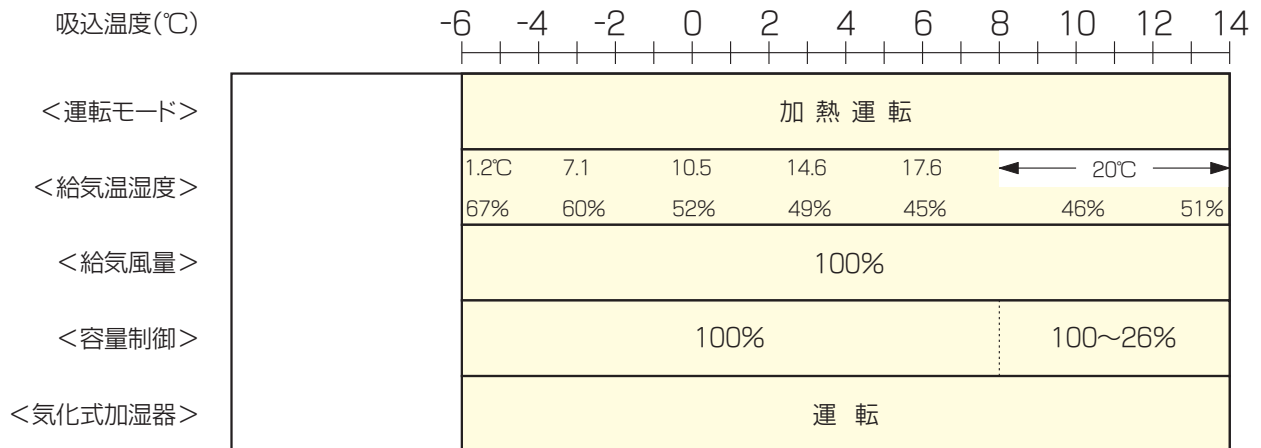
仕様表

型番		RFT-4800A	RFT-6000A	RFT-9500A	RFT-12000A	
給気風量範囲	m ³ /h	3840~5280	4800~6600	7600~10450	9600~13200	
	m ³ /min	64.0~88.0	80.0~110.0	126.7~174.2	160.0~220.0	
放熱空気風量	m ³ /h	9000	11000	17500	22000	
	m ³ /min	150.0	183.3	291.7	366.7	
再熱器		ホットガス方式				
2ウェイ回路		—		対応品		
冷媒		R410A				
電源		三相 200V 50/60Hz				
給気側ファン	タイプ		両吸込多翼形			
	駆動方式		ファン・モータ直結式 インバータ制御			
	モータ	タイプ	全閉外扇形			
		出力(kW)	3.7	3.7	7.5	7.5
	消費電力	kW	2.67	3.06	4.84	6.11
	機外静圧	Pa	500	500	500	500
放熱側ファン	タイプ		プロペラ形			
	駆動方式		ファン・DCモータ直結式 比例制御			
	モータ	タイプ	全閉形			
		出力(kW)	0.7	0.7	0.7×2	0.7×2
消費電力	kW	0.7	0.8	1.3	1.6	
熱交換コイル		10Φ相当溝付楕円銅管・高性能アルミフィン				
加湿器		気化式加湿器				
エアフィルタ	プレ	質量法70%				
	メイン	中性能フィルタ(比色法65%)				
制御装置	本体	CO ₂ 比例制御、給気・還気温度制御、加湿・除湿制御 再熱制御、実績データログ、自己診断ログ				
	インターフェイス	通信ポート(RS-485)、運転状態出力、異常出力、給気ファン運転状態出力 外部運転入力、加湿運転入力、風量制御入力、CO ₂ 制御入力				
保護装置	冷媒回路	高圧圧力開閉器、低圧圧力開閉器 圧縮機吐出温センサ、インバータ電子サーマル				
	ファン	インバータ電子サーマル、ヒートシンクサーモスタット				
ケーシング	外装板	ガルバリウム鋼板・サンドイッチパネル(給気側のみ)				
	ドレンパン	ステンレス鋼板				
騒音レベル	dB	59	61	62	64	
質量(kg)	フード	25	30	40	45	
	本体	950	1020	1530	1620	

- 消費電力は上記仕様表の場合を示し、給気側ファンの消費電力は0A型のときを示します。
- 仕様は給気風量が型番数値の場合を示します。
- 給気風量範囲は上記仕様表以外の対応も可能です。詳細はお問合せください。
- 騒音レベルは0A型のときを示し、機体より1.5m、高さ1.0mで吐出音の影響無し(吸込音は含む)での算術値です。
- 電源配線・機器容量はP45をご参照ください。
- CO₂制御は0A型のみ対応となります。(CO₂センサはオプション)
- 本製品は法定冷凍能力20トン未満のため、高圧ガス保安法に基づく製造届および許可申請は不要です。
- 本製品を長く安心してお使いいただくためには定期的な保守・点検が必要です。
各製品の点検・保全周期については日本冷凍空調工業会発行の保守・点検ガイドラインを参考にしてください。

RFT-A型

■運転パターン参考値(RFT-A-OA型)



- 給気風量型番数値、給気温度設定値20°Cのときを示します。
- 加熱運転 吸込温湿度条件
外気：DB<0°CのときRH=80%、0≤DB≤5°CのときRH=60%、DB>5°CのときRH=50%
- 冷却運転 吸込温湿度条件
外気：DB≤36°CのときRH=69%、36°C<DB<39°CのときRH=60%、DB≥39°CのときRH=50%
- 除湿再熱運転 吸込湿度条件 外気：RH=85%
- 型番により圧縮機容量範囲が異なります。

- 備考
1. 外気吸込温度が-6°Cより低い場合は使用できません。
 2. 運転パターンを変更したい時は予めご指示ください。
 3. 加熱運転時、給気が設定温度に達してから加湿を開始します。
 4. 加熱・送風運転時(送風モードは除く)、外部信号入力による気化式加湿器のON-OFFも可能です。
 5. 着霜時には圧縮機保護のため給気温度は低下します。
 6. RFT-A-OA型は外気処理専用機であり、室温は室内機にて調整してください。

■使用環境

	外気・周囲条件	還気条件
乾球温度(DB)	-6~+40°C	+5~+33°C
湿球温度(WB)	+31°C以下	+25°C以下
相対湿度(RH)	35~90%注1)	35~90%

供給電圧
定格電圧
環境
標高1000m以下 腐食性、爆発性ガスのないこと 粉塵、油分が特にひどくないこと

注1)加熱・暖房時はRH=28~90%

注2)本体内通過空気との温度差が大きいときは、表面に結露する場合があります。